

# もど子と人婦

號四第 卷貳拾第



行發會ルベールフ

第二十卷第四號目次

春風

家庭と幼稚園

下田次郎

歐米初等教育近時の傾向

棚橋源太郎

モンテッソリの教育

倉橋惣三

子供と胃腸病

石塚保吉

「のうるし」と「しゃうくぼく」

保井コノ

森の幼稚園

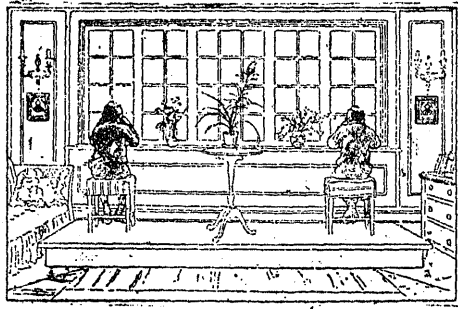
S K 生

机邊だより

倉橋生

——スタンレーホール氏「幼稚園の教育」——

雑録



## 婦人と子ども

第十二卷第四號

### 春風

春風が吹く。温かさと和かさを以て春風が吹く。山に、野に、森に、街に、新しい春風が吹く。其の春風の訪づるゝ處、包むに餘る喜びが漲り溢れる。草の緑、花の匂、さては野川の水の音にも。

幸なるかな春風に浴す。願はくは更に自ら春風となつて人の心の裡に吹かん。愛らしき園の若芽は吾等を待てるに。

# 家庭と幼稚園

幼稚園に入るべき幼児の年齢に就いて、いろいろの意見がありまして、其の結果、女子高等師範学校附属幼稚園では、今年試に四歳以上の児童を入れることになりました。文部省の規則では満三歳から入れることになつてゐるのですが、餘り早くから幼稚園へ出すといふことは、いろいろな點からよくないといふことで四歳以上の児童を、試みに保育することになつたのであります。私は幼稚園教育には直接経験がありませんので、さういふ細い點には別に申上げる意見も持ちませんが、た私が現在の幼稚園教育に對して、常に抱いてゐる希望の一は、もう少し幼稚園といふものを家庭に接近せしめ度いと云ふことであります。つまり成るべく子供が家庭にゐる間の気分を、その儘幼

東京女子師範學校教授 下 田 次 郎

幼稚園に行つても續けて持つてゐるやうにし度いと  
思ふのです。幼稚園を家庭とかけ離れたものにし  
て、他所ゆきといふ感じを子供に與へてはならぬ  
と思ふのであります。現在の幼稚園は幾らかこの  
憾みがありはせないかと思はれます。さうするに  
は、児童の数が餘り多いといふことは面白からぬ  
ことで、大勢の間にあることは一種の愉快には相  
違ありませんが、餘り多くなると、家庭に於ける  
やうな心持ちが失はれて、刺戟を受ける度が多く  
なるのであります。經費や志望者の關係から、何  
處の幼稚園でも人数を多く入れてありますが、理  
想から云へば少い方がよいのです。

由來、幼稚園は家庭に比して、どうしても規則  
的、機械的になり易いので、大勢の者を一緒に取

扱ふには、矢張りさういふもので統一せないと都合が悪い爲めであります。これは一方から云へば規律とか共同とかいふやうな習慣をつけることにもなりますが、一方餘り早く幼児の自由を束縛して、其の自發性を十分に現すことが出来なくするといふ恐れもあるのです。又、澤山の子供が一齊に運動したり、唱歌を唱つたりするといふことも一方には大勢で勇んで楽しくするといふこともあるには相違ありませんが、また時には、餘り刺戟を與へるといふ弊も伴つて來ます。來賓の前へ立たせて、一緒に唱歌を唱はせるといふことも、時には餘りに強い刺戟にはなるまいかと思はれます、さういふ風にして、この頃の年齢としての子供に強過ぎると考へられるやうな事をして、子供の刺戟性を餘りに興奮せしむるといふことは、最も慎重ななければならぬ事柄の一つであらうと思ひます。大體に於いて、今日の幼稚園はさういふ弊がな

らうかと思はれます。

元より幼稚園で直接保育の任に當つて居らるゝ人は、十分その邊の事に意を用ゐて居らるゝでせうが、家庭に於いて親として、家庭に於ける子供の日常生活のみを見てゐる目から、突然幼稚園に臨むと、どうも、さういふ感じが起るやうに思はれます。保育の任に當る人の頭には、さういふ事柄は十分判りきつてゐる事柄なのですが、實際の上には知らず／＼學校的になり、課業的にならしむる傾がありはせまいか、保育者自身は少しも意識せないので、當り前のこととして、少しの疑問も挾まない事柄であつても、家庭から突然幼稚園を見るとき、さういふ感じを父母に與へるやうな氣分がありはせまいかと思はれるのです。

私の考へでは、もう一層幼稚園を家庭的にし、もう一層自由にして、家庭に遊んでゐると餘り違ひのないものにし度いと思ふのです。今日の實際

は自分等の希望してゐるものとは、其の違が餘程  
大いやうに思ひます。この點は十分保育の任に當  
る人が、父兄等の意見も聞き、又理論も考へ、經

験にも訴へて講究すべき一の大切な問題であらう  
と思ひます。(談、文責在記者)

## 歐米初等教育近時の傾向(二)

(フレイベル會二月例會に於ける講演大要)

東京高等師範學校教授 棚橋源太郎

### 兒童の實驗的學習

前の作業教授に關聯した事柄で、子供の知識は  
子供自らの實驗に依つて會得せしむるといふ教授  
法が一般に行はれてゐます。つまり、總の事柄は  
子供自らの手で實驗し、發明して、其の知識を得  
て行くので、教師が注入的に教へ込むのではあり  
ません。例へば植木の萌發といふことを知らしめ  
やうとしますと、實際に子供に種を蒔かして見  
て、温い室内と寒い室外とに又水氣のある皿と乾

いた皿とに、それで以て萌發には溫度や濕氣の必  
要といふこと、根から先きに生へるといふやうな  
ことを會得せしめ、それをノートにスケッチせし  
めて置く。教師はたい次の時間にそれを土臺にし  
て、教授を進めて其知識を擴充し系統立て應用の  
方面を知らすといふだけに過ぎないので、根本  
の要素は子供自らが發見するものであります。鉛  
の比重を教へるにしても、子供自らに水の中で計  
らしめ、其の結果を書き取らせ更に各生のを通算

して決定するのであります。比重の如きは實驗者によつて、必ず幾分の相違はあるものですから、教科書にあるもののみが正確な比重とは云へないので、子供が正當に實驗したものは、矢張り正確な比重であるとして、少しの誤りもない譯であります。

子供にさういふ實驗を行はしむる爲めには、子供相應の参考書を與へて置く。子供は自由にこれを参照することが許されてあるのであります、斯の如くして子供自ら知識を見出し學んで行くので飽くまでも發動的であります。其の結果子供自ら教科書を作ることになり、併し先生の教へる事柄を無我夢中で、一から十まで筆記する受動的な教授ではありません。勿論、先生は生徒の發問に對しては親切に答へ、且つ如何にすれば知識を發見することが出来るかといふことに就て十分の暗示や助言を與へますけれども、要するに先生は

監視者たるに過ぎないのであります。

### 獨逸に於ける美的教育

獨逸の初等教育に就いて、もう一つ申し上げなければならぬ問題は、子供の美育といふことが近來非常に重大視されて來たことであります。これも教授上の主義として、すべての學科に通じて行はれてゐるのであります。これは教育學術進歩の結果、吾々の美しい感情や趣味性はどうしても藝術の力に俟たなければならぬ、藝術と教育とはどうしても離すことの出来ない關係があるといふことが明になつて來た爲めであります。これは日本の教育に於いて、殊に注意すべき事柄であらうと思はれるのです。現今の小學校に於ける圖書教授の如きはこの見地から一大考慮を要すべきものと思ひます、尋常師範學校を卒へただけでは餘程の天才ならば兎も角も、普通の人には、どうして子供に繪を教へることが出来ませう。一國美術工

藝の基礎たる圖書教授の改良圖書教師の改造といふことは日本の初等教育上最も急を要する仕事であらうと思ひます。然しこれは獨り圖書のみではありません。唱歌、手藝、家事、體操等に於いても、同様の感を抱くのであります。

獨り教授上に止らないで其の外、校舎、校庭の如きも飽くまで、建築美といふものに注意して、周圍の事物から自然と子供に美的趣味を養はしめるやうに努めて居ります。又、教場の裝飾にしても、廊下の壁などは日本のやうに白壁を用ゐないで、元始的な單純な子供の趣味に合ふ様な模様や模樣的な繪が畫かれてあります。又教室の壁にも特に其の目的で製作出版された子供向きの裝飾畫が掲げられてあります。稍上級になりますと有名クラシカルな古典的な繪畫の複製を掲げて置くといふやうにして、努めて裝飾に意を用ゐて居り、其れに費す費用は實に多大なものであります。庭園の如きも

日本のやうに、かういふ殺風景なものではなく、もつと自然の風致に富み、綺麗になつて居ります。音樂は殊に盛んであります。小學校でも三重音や四重音を課し、高等女學校になれば、生徒仲間てピアノ、ヴァキオリン、セロ等の團體が出来てゐまして、學校内の何かの會には常に合奏が行はれて居ります。父兄會などの場合には、勿論いろ／＼な仕事はありますが、其の中心は矢張り音樂であります。

#### 美育としての學校芝居

美的教育の一方法として、近時流行を極め、注意すべき事柄は、學校芝居であります。獨逸では田舎の小學校下さへも此の學校芝居が盛んに行はれて居ります。其の脚本とも云ふべきものが「通俗少年芝居」と云ふ題で叢書になつて居ります。筋は極く簡單なもので、普通の昔話を巧みに面白く綺麗に脚色したもので、諸處に簡單な詩が編



み込まれて居ます脚本には之に對する樂譜から科  
白舞臺上の衣裳、書き割其他の注意が一切與へら  
れて居りますから、教員も子供もこれに依つて自  
ら舞臺を作り、劇を演ずることが出来るのであり  
ます。私の一度見たのは一幕が十分位かゝるもの  
で、それが五幕程になつて居りました、高等女學  
校などでは、文學の先生が其指導の役を務められ  
て居りますが小學校では唱歌の教員が先きへ立つ  
てやつて居ります。

之に要する舞臺の背景書割や衣裳、室内の裝飾  
は皆子供の繪と手工とで作られ、科白と詩とは平  
生國語で學ぶ所と連絡があり動作の美は體操なり  
作法教授に關係する所、昔話の筋なり衣裳なり  
は直接歴史で取扱ふ所であり、音樂の美も文  
學としての詩なり對話なりの價値も舞臺の上で初  
めて十分に發揮され得るので學校芝居はすべての  
美育科の總練習とも見るべきものであります。

總て藝術の價値といふものは、見る人をして其  
の中に惹き入れてしまふ處にあります。而して演  
劇は最も其の力を持つて居るもので、吾々の感情  
を美しくも、こまやかにせしめ、思想や感情を圓  
満に、角を出さずに、自由に外界へ發表するもの  
であります。役者が一般にイヤミのない氣持のい  
い感じを與へますのも、即ちこれが爲めでありま  
す、我々の體操にも此の目的が含まれ居るのであ  
ります。體の動作や形を美しくするといふことが  
要求されて居ります、學校芝居は、かういふ目的  
の爲めにも、價値があります。かういふ立場から  
獨逸では學校芝居が盛んに行はれて居るのであり  
ます、獨り昔話に止らないで史劇のウキルヘルム  
テルなども盛んに演ぜられて居ります。田舎の小學  
校へ行きますと、實際の森を背景にして、子供芝  
居をさせる所もあります。

### 初等教育の分化

最後に申上げ度いことは、初等教育上の仕事がそれ／＼分化されて来たといふことであります。従來の教育の仕方は、例へば耳の遠い爲めに頭腦は明瞭でも成績の劣等な子供に對して、あの子供は低能兒であるといふやうに取扱つて来てゐたのであります。が近來醫學上の進歩に伴つて、段々精密に調べたつて來まして、さういふ子供の爲めに難聴兒學校が出來、又低能兒の爲めに補助學級は次第に補助學校として獨立する様になりました。また成績の宜い優等な子供の爲には、選抜學級とかA學級とかいふ様な比較的程度の高い學級が出來、又、體の弱い子供は森の學校で教育するか、或は運動場に教室を移して外氣中で教授する様になり、又子供が學校から歸りましても、親が仕事に出て留守であるといふやうな家庭の子供には、其の子供を預つて保育をする保護所が出来るといふやうに、それ／＼教育上の仕事は分化して

來たので、従つて其の教育する場所が著しく増加し、或は子供の體格性能を検査して、その子供を相當な學校へ送るといふやうな試験所が出來、或は兒童學の博物館で出來るとか、兒童學の實驗所が出來るとか、其の仕事が複雑になつて來たのであります。就中實業補習學校とがこれに類した低度の實業教育は非常な發展をして來たのであります、これ等も日本の教育者の大に注意すべき點であらうと思ひます。かういふ風に各種の教育の機關が分化して來ました爲めに、これに要する教師の養成が問題になつて來てゐるのであります。單に師範學校を出たいけではないけない、其の上に専門的な知識を持つた人でなければ、ならないのです。と云つて職人を連れて來て先生にするといふやうなことは、人格の劣等な爲めに、到底行はれ難い事柄であります。適當なる教師を得るといふことは今後益々困

難になつて來やうと思はれるのでありますから、日本の教育社會では前以て斯ういふ問題をも解決

して置きたいのであります、これで今日の講演の大體を終えたので御座います。(終)

## モンテッソリの教育

此の一篇は「心理研究」三月號に掲載したるものですが幼児教育に直接の關係を有する新問題ですから本誌に再録しました。

倉 橋 惣 三

近頃教育上の新問題と云へば、獨逸のケルシエンシュタイネル氏等の唱導して居る作業主義教育と、伊太利のモンテッソリ女史に依つて實行されて居る所謂モンテッソリ式教育法とであらう。元來、教育上の新主義が起るには、其の原因とも理由とも云ふべきものがある。従來の教育主義に對する思想上の反動から起ることもある。新しい時代の實際上の要求に促されることもある。或はまた、教育の基礎學としての心理學上の

根據から立てられて行くこともある。而して作業主義教育が其の精神に於いては、必ずしも最新のものでなく、亞米利加等では疾から説かれて居たことなるにも拘らず、更に此の新しい名稱を以つて獨逸の學者に唱導されるやうになつた譯は、蓋し時代の實際的の要求も大に與つて居ること、思はれる。所謂、「役に立つ教育」といふことの實際上の註文が次第に切迫して來た結果とも見られる。然し作業主義教育のよつて立つて居る基礎は、かういふ實際上の必要のみではない。もう一

層深い處に心理學上の根據がある。一口に云へば、精神陶冶に於ける運動感覺の價値を認めた心理學上の所説に基いて居るのである。モンテッソリ教育もまた、一方から云へば時代の要求に應じて居るものであるが、其の大根柢は、矢張り心理學上の所説に基いて居る。即ち兒童の自發性を研究し信頼して、どこ迄もこれを活用して行かうといふのである。即ちこの新しい教育上の問題は二つとも、其の根柢に於いて心理學上の批判を俟つて居る。或は既に批判を要しないならば説明を俟つて居ると云つてもよい。

作業主義教育に就いては既に多く紹介もされ論ぜられても居るから、茲にはモンテッソリ教育に就いて少しく考へて見る。

## 二

マリア・モンテッソリ女史 (Maria Montessori) が初めて其の新しい教育法を始めたのは、今から六

年前(一九〇六)のことである。其の以前、女史はローマ大學の精神病學の助手として勤めて居る間に(女史はローマ大學の醫學士である)、低能兒童に多大の興味を有し、専ら其の問題の研究に従事した。其の後、二年ばかり實地の教育にも従事したが、再びローマ大學の哲學科に入つて、七年間の永き心理學及び教育學の研鑽に専心した、即ち女史の事業は最も深き學術的研究を基礎として居るものである。恰度此の時ローマ市の社會的改良を目的とせる或る協會に依つて四個の貧民學校が建てられた。女史が従來低能兒童教育に施した方法を應用して、普通兒童の教育に試むるの機會を得たのはこの學校に於いてである。

これ等の學校は伊太利語で Casa dei Bambini と呼ばれてゐる。即ち學校と云ふよりは「兒童の家」と云つた方が適當である。「兒童の家」には先づ次の如き規則が設けられた。

(一) 兒童の健康、生理的及び道德的發達は、其の年齢に適應せる課業と練習とによつて、注意せられなければならない。

(二) 各「兒童の家」は女主事、醫師及び番人によつて監理され三歳より七歳に至る兒童は、何人も入ることが出来る。

(三) 「兒童の家」に出席する兒童等の父兄は、何等の謝禮をも要しないが、然し左の義務は固く守らなければならない。(イ) 兒童を通學させる際には、身體と衣服の清潔を要し、必ず適當な前掛けを用ゐさせること、(ロ) 父兄は「兒童の家」に於ける女主事を始め職員全體に對して、充分の尊敬を拂はなければならない。少くも一週に一度は母達は女主事に面會して家庭に於ける我が子の状態を報告し、教育上の指圖を受けなければならない。

(四) 次の如き者は「兒童の家」に入ることが許

されない。(イ) 顔を洗はず或はだらしなき態度に來るもの、(ロ) 到底訓練に従順ならざるもの、(ハ) 「兒童の家」の教職員に對し敬意を缺くもの若しくは悪行を以つて此の教育事業に妨害を加ふるもの、子弟

相手が貧民のことであるから殊に右の如き嚴重なる規則が必要であつたのであらうが、女史の根本主義たる自由教育を存分に施す爲めには、先づ斯の如き前提條件を撤くことは最も當然であつたのである。

モンテッソリ女史の教育主義には、根本となる幾つかの約條がある。其の第一は兒童の全自由を尊重し、其の自發的自然勢力を残りなく活用せよと云ふことである。女史の考へによれば、訓練されたる兒童とは、自主なる兒童のことである。即ち人生の諸種の規範に従ふべき際にも、決して他力的ならず、自克制已に出で得る兒童のことであ

る。但し他人の害となるべき底のことに於いては其の自由が制限せられなければならないことは勿論である。苟くも、さうでない限りは、兒童の自由は全く許可されなければならない。許可さるゝと云ふよりは寧ろ教師によつて遵奉されなければならぬ。教師は兒童のこの自然性を遵奉し得る寛容があるのみでなく、進んで興味を持ち得るものでなければならぬと云ふのが女史の意見である。女史の見解によれば、この自發性に干渉することは即ち生命の眞髓を阻害することなのである。是に於て兒童の訓練は即ちこ迄も兒童の獨立の發達であらなければならない。兒童が他人によつて奉仕され、また他人に依頼して居る間は、未だ眞の自由ではないのである、衣物を着せられたり脱がせられたりすることに於ても、食物をたべさせて貰ふことに於ても、人にのみしてもらつて居るのは、未だ眞の自由でないのである。而し

て女史の實驗によれば、適當に訓練されさへすれば、三歳にして十分にこれ等のことが出来る筈だといふことである。勿論、子供に衣物を着せ、食物をばくぐんでやることは子供に自分でさせるよりも、簡單で容易なことである。然し世話ばかりやいて居るのは、僕婢の業である。子供に自分でさせるやうにするのが、始めて教育者であると云ふのである。

モンテッソリの教育には、賞罰と云ふことはない。兒童自らの熟達の感じが即ち賞である。罰といふのは單にこの感じのないことに外ならない。別に外から来る恐怖では少しもないのである。女史の教授は最も簡單を主として努めて餘けいの説明を避ける。即ち複雑多様な言辭を以つて、兒童の頭腦を混亂させ、或は要點を失はしめるやうなことを忌むのである、教師はまた兒童の嗜好に反して、學科の反復を強ひてはならぬ、又如何な

る場合に於いても、兒童に其の失敗或は不理解を憂慮せしめてはならぬ。

かういふ殆ど極端な程の自由主義であるから、女史の學校は傍からは兒童が皆遊んで居るとのみしか見えない。去年十二月「ニューヨーク・タイムス」が其の日報附録號で、亞米利加に於けるモンテッソリ式學校の記事を掲げて、「机も組分けも、諳誦もない學校」と題して居るのは、要を得た形容と云ふべきである。床の上に腹這になつて、色を塗つて木片を以つて遊んで居る子供がある。目隠しをして指尖きばかりで、いろいろの品物の當つこをして遊んでゐる子供がある。參觀人の來たのも氣附かばこそ、室の一隅で一生懸命獨りで黑板に何か書いて居る子供がある。手蹟の餘り見事なのに驚いて、何時から稽古をして居るかと問へば昨日からだと答へる。かういふ風にして、兒童の方から用があるか、質問でもなければ教師は殆

ど何等の干渉をも與へないのである。子供等は自分の氣の向き次第、二時間の日課を自分の好きな課業だけして居てもよいのである。自發的注意が教育の唯一の基礎だといふ原則から、此の干渉も加へられない。かう云へば如何にも亂雜極まる有様になりさうであるが、實は其の反對である。「兒童の家」に集る子供等は總べて極貧の家の子であるけれども、其の風貌と云ひ、行儀と云ひ實に整然として秩序が亂れない。

この特種學校は午前九時から、午後の五時半まで子供を預る。但し課業としては二時間乃至高々二時間半に限られて居る。朝子供等が登校すると先づ化粧室へ行く。そこで自ら手・顔・首・耳などを洗ひ、子供同志で助けあつて、前掛けをつける。次に皆で學校中を廻つて見て、少しでも不整頓な處、不潔な處があれば、子供等自らで片づける。其の後で十時までは庭で遊ぶことになつて居る。

それからが課業であるが、モンテッソリ教育に於いては、運動感覺の教育が第一の重要事項になつて居る。即ちボタンをかけたたり、脱ぎしたり、紐を結んだり、ほごいたり、そういふ指さきですると云ふやうなことが、幼い方の子供の學課になつて居る。その他、普通の幼稚園用の恩物、及びモンテッソリ獨特の材料も用ゐられるが、兎に角、一般教育に於いて、ゆるがせにされ勝ちな觸覺及び筋肉感覺の訓練が、盛に行はれるのである。積木をするにしても一度目を開いてした後、目を閉ちて再び試みる。即ち「指で視る」練習が重んぜられて居るのである。

女史は子供の自發性として、これに伴ふ自然の興味とを利用して、書き方も、読み方も、數へ方も見事に熟達させて居る。普通の學校の二年或は三年級の兒童と同等の能力が此の學校では、四歳乃至五歳にして十分に得られると云ふのである。素と

りこれが爲めに生ずる無理も過勞もないことは云ふまでもない。何れも外から見れば遊びの形を以つて教へられて居る。字を教へるにしても習字といふやうな、學科的作業を初めから強ふることはない。女史の方法では大體次のやうな順序が用ゐられる。先づ初めに自由なる筆の動し方を練習させる。それにはいろいろの形をした板片を與へて、紙の上に其の縁をなごらせる。そして其の中を塗らせる。これでいろいろの方向に自由の形に筆を動かして行く練習がつくのである。次にはアルハベツトを切りぬいた板のやうなものがあつてこれを見たり觸つたり並べたりして居る間に、先生から音を聞いて其のいろいろの感覺の結合が出来て行く、第三にはちらしてある其のアルハベツトの中から例へばを探して御覽といふやうなことをする。又其の一をとつて、これは何でせうかといふやうな問を出す、總べてかういふ順序で子音



と母音を結び付けて、次第に文字に進んで行くのであるが、我が國の文字の場合とは自ら違ふから詳説は略する。そして字を知つて後に更めて白墨を興へれば、運筆の練習は既に出て居るから、子供は面白がつて、ずん／＼字を習くと云ふ工合である。全く自分で自分を教へるといふてよいのである。數を教へるにしても、抽象的な數の觀念から授けてゆくといふやうな事は決してしない。先づ衛生上の注意から特別に清潔に保存された幾枚かの貨幣を用ゐて、大きい貨幣を小さい貨幣に兩替するといふやうな遊びから、數の練習をされてゆく。其の他詳しく言へばいろいろのこともあるが、兎に角、子供は普通の遊戯をして居る場合と同じ自由と興味とを以つて、全く自發的に讀み方も書き方も數へ方も、立派に發達して行くのである。

### 三

モンテッソリ女史が自ら其の教育法を述べた著述が二つある。一は一九〇九年に、一は一九一〇年に出版されて居る。然し遺憾なことに予は其の書を読むことが出来ない。Metodo della Pedagogia Scientificaと題する、方の獨譯は目下進行中であり、英譯も遠からず出版される筈であるから、詳しいことはそれを俟つて再び紹介することが出来ると思ふ。現在英文で紹介されて居るものは、昨年五月と十二月の『マックルア』雜誌及び同じく昨年十二月の『ベダゴデカル、セミニナリ』誌上に於けるスミス女史の論文が主なるものだと思ふ。予の此の紹介も主としてスミス女史の文によつたのである。其の他、前に一寸あげた『ニューヨークタイムス』の日曜附録によつて、米國に於ける唯一のモンテッソリ教育所たるアンネ・イー・ジョーシ嬢の「兒童の家」の狀況を知り得た位のことによつて、伊太利本國に於ける其の後の景況及び瑞西

等に於いて實行されて居る種々の試みの結果等に就いては、多く知らない。殊にこの教育法を普通の小學校教育にまで應用しようとする興味ある試みの結果もまた、少しも知らない。従つて斯の如き貧弱なる知識を基として、十分なる批判を試みることは、もとより困難である、たゞ大體に關する所感を述ぶることを許して貰ひ度い。

モンテッソリ女史の教育法の精神は、其の方法に就いて見ればいろいろの新工夫、新発見が多いのであるが、其の根柢たる心理上の基礎は、前にもチヨツと述べた如く兒童の自發性の教育に外ならぬ。抑々兒童の自發性の科學的綿密なる研究は兒童研究の發達と共に近頃盛に注意されて居るところである。従つて其の研究の結果は未だ十分完了た云ふことは出来ない。然しこれは純粹研究上の言であつて、教育的着眼と云ふ點から見れば、兒童の自發性は必ずしも今に始つた問題ではない。

殊にフレーベルの幼稚園教育の第一原理たる自己活動は即ちこれに外ならぬのである。由來、多くの人によつて其の着眼は繼承され、益々發揮するやうに努められて居る。而も形に従つて内を忘るゝことは、總べての偉大なる主義の繼承者が屢々陥る處である。即ちフレーベルヤンはフレーベルの此の着想を忠實に繼承しようとなつて、何時の間にか形ばかりの繼承に流れたものが尠くない。茲に於いて元來兒童の自己活動を十分に尊重すべき筈のフレーベル主義幼稚園教育がなかく以つて、兒童の自發性を毀損して居るやうな例も尠からぬことである。そこで幼稚園の教育に對して再び兒童の自己活動尊重の要求をさへ提出するやうな奇觀を呈して居る。のみならず幼稚園以上の小學校教育に於いてすらも、舊來の觀念主義注入教育に反抗して兒童の自發性の發揮を尊重することが大なる一の傾向となつて居る。實際上顯

著なる實行として、米國のジョンソン氏の「遊戯による教育」の如きさへもある。又、前に述べた作業主義教育の如きも或る意味から云へば、兒童の自發性を利用せんとするものとも云へる。即ち兒童の自發性をより多く教育上に利用せんとすることは、新しい教育者、殊に兒童研究を基礎とせる教育者の一般の希望と云つてよいのである。唯、これを實現するだけの「人」が多くなかつたのである。マリア、モンテッソリ女史は即ちこの「人」であつたのである。其の深奥なる學理的知識に基づく確信と、生れながらの教育的技術とに依つて、この古くて新しい教育上の原則を活きたものにして、議論でなく實驗に依つて證明した「人」なのである。

余は茲に兒童の自發性に関する詳細の論議を試みる暇を有しない。又、フレーベル以來の此の主義の教育意見に就いて、細論を繰返す必要はない

と思ふ。唯、今迄は單に理論上の要求として、又、理想上の希望としてののみ、憧憬して居た事實、或は寧ろ豫想以上と云つてもよい程の結果が、こゝに目の前に證明されたことを見て、吾人の從來の理論的確信が事實的に裏書されたことを喜びにたへぬのである。但し此の裏書の流用効力に就いては其の範圍を何處まで擴張してよいものか知らない。又、これが單に方法の力として何處にでも實効を奏し得るものたるや否やも、輕々しくは言ひ易からずと思ふ。今や、モンテッソリ教育法は世界の教育の一流行として、次第に適用されつゝある。我が國にも専門家は勿論、骨つて萬朝報の論説欄に女史の名を紹介せられて以來、所謂、放任主義教育者の間には、非常の興味を以つて傳唱されて居る。然し吾人は總べての教育的新現象に對して、重要な二の態度を忘れてはならぬ。即ち純研究上の態度としては、何處までも贊成論を

するとしても、實行上の態度としては、其の新方法を如何に活用すべきかの謙遜なる慎重なる態度を要すべきことである。余もまた、モンテッソリ教育法の紹介者の一人として次のことを明かに附言して置かなければならない。

(一)モンテッソリ女史の主張する兒童自發性の尊重と、其の教育上の可能とに就いては、萬腔の同意を表す。

## 子供と胃腸病

成人の胃腸病は、さ程重大な病氣ではありませぬけれども、子供にあつては決して輕視することの出来ない病症であります。年々この爲めに命を失ふ子供も尠くはないのです。子供と申しても年齢の少ない程これに罹り易く、且つ危険の度が多

(二)然し茲にいふ兒童自發性の發揮といふことと由來誤解を伴ひ易き教育上の所謂放任主義とは暫く區別し置くを要す。

(三)即ちモンテッソリ女史の精神を離れざる其の方法の適用に就いては、素より推奨者の一人なり。而も其の「人」に非ずして單に方法のみを用ふる者の陥り易き危険に就いては、お互自分の十分なる警戒を約束せざる能はず。

醫學士 石塚保吉

いのであります。子供にも哺乳兒、即ちお乳ばかりをたべて居る時代と、稍大きくなつて普通の食物をとつて居る所謂兒童との二ツの時期を分けることが出来ます。そして哺乳兒の時代が一番で胃腸病に胃され易く、又それに伴つていろ／＼六

ケしい病氣が出て來るのであります。故に先づ哺乳兒の御話し度いと思ひます。

### 哺乳兒の消化不良

單に哺乳兒と云ひましても、其の中に二つの區別があります。一は母の乳を以つて育てられる子供と、人工營養、即ち牛乳其の他のもので育てるゝ子供とがあります。母の乳で育てらるゝ子供は割合に胃腸病が少くあつて極く輕いのです。これに反して人工營養兒は最も此の病氣に罹り易いのであります。何故さうかと申しますと、胃腸病の原因の主なるものは、お乳が黴菌の爲めに穢れて居るか否かによるもので、母の乳には比較的に穢れることが少いのであります。これに反して人工營養でありますと幾ら注意してもいろいろ原因の爲めに穢れることが多いのです。其の外、牛乳それ自身が母乳に比して消化がわるく又腐り易いのみならず其溜め分量などが適當でない

とかいふやうなことで、消化不良を起し易いのであります。故にそれを防ぐ爲めには器物を清潔にしたり、乳そのものに十分注意をするといふやうなことは勿論、其の外子供の年齢に應じて乳の分量を適當にし、時間を正確に定めて與へるといふやうなことも嚴重に守らなければなりません。乳の分量といふことは、其の子供の年齢なり體質なり營養状態なりに關係する處が多いのですから一様には定められませぬ。其の子供によつてそれ〳〵小兒科の醫師に相談なさる方がよいのです。母の乳を呑む子供には胃腸病は起らないかと申すと、決してさうではありません。お乳を食べ過ぎたり、不規則に哺乳したりすれば矢張り胃腸を傷めるのは勿論で、又、母親が病氣其の他の原因の爲めに乳に變化を來すといふやうなことも消化不良を起す原因になるのですから、これ等は充分に注意する必要があります。時間の定りは母の乳

ですれば、大約二時間半、牛乳なれば三時間の経過を置くことが大切であります。これ等は皆豫防上の注意でありますが、次に此の病氣に罹つた時の手當を一通り申上げて置きます。

#### 胃腸病の手當

胃腸を悪くした子供は、初め機嫌が幾らか悪くなり、よく眠り得た子供でも安眠が出来なくなり、眠つても直ぐに目を覺まし、時とするとお腹が痛むやうに泣くこともありませす。胃の方が悪いと吐き、腸が悪いと大便に變化が起ります。普通赤兒の大便是恰度黄色い色をした膏藥のやうなのが日に一二回位、時を定めて出るのが常態であります。これが變つて青味を帯びて來たり、便の中に菜種のやうな不消化物が紛つたり、回数が多くなつたり、又少しく激くなると發熱をしたりすれば、もう消化不良を起した徴候でありますから、取り敢ず醫者に相談せなければなりません。前に

もお話したやうに消化不良といふものは、やさしい病氣のやうで、其の實ゆだんの出來ない病氣で、幼い子供などは殊に大切であります。この爲めに命を失ふ幼兒も可なり多いのであります。これを早く手當をすれば治りも早く、危険も少ないのですから、胃腸だからと云つて、高をくゝつて輕視して置くといふやうなことの無いやうにせなければなりません。

此の病氣の手當として、昔の醫者は初めから收斂劑を與へて下りを留めたものですが、此頃はこれと丸で反對に、お腹の下るときは寧ろ下劑を與へて、さういふ病原菌を外へ排出させてしまつて、それから收斂劑を與へるといふやうになつて居るのですから、醫者がさういふ手當を施した場合には、決してこれを拒まれてはなりません。人によつてはお腹の下る處へ下劑をかければ、一層悪くなりませないかと云ふ懸念を抱いて、此の手

當を嫌がる人がありますけれども、それは大變な誤りでさうしなければ早く治らないし、また、さうせなければならぬのであります。其の外、かういふ病氣の場合には母の乳を止めるやうなこともありません。お乳を食べてゐる間は子供の病氣が治りませんから、さうするのであります。これも人によつて非常に厭がられますけれども、消化不良が重くなつたり、殊にこれから夏になりますと、是非この手當を實行せなければ全快せないので、から、醫者の言を用ゐられることが必要であります。

これ等は極く普通の消化不良症ですが、これももう少し擲つて置きますと、いろ／＼重い病が起つて來ます。例へば腹加多留、小兒虎刺瀉、泡性腸炎等がそれで、かういふ病症になりますと手當もなか／＼困難で、且つ容易に治り悪くなるのですから、重くならない中に十分注意されるこ

とが極めて大切であります。殊にこれから夏向きになりますと、腹加多留が非常に多く、病症も重く経過も早くなつて、結り危険の度が激しくなつて來ますから、餘程早く手當をするやうにせなければなりません。

#### 兒童期の胃腸病

以上は嘔腹兒に就いての病氣であります。もつと大きい兒童になりますと、いろ／＼な病氣が出て來ます。一般に言ひますと、兒童は哺乳兒に比して輕症なのですが、たい此の中疫痢は最も恐るべき病であります。其の徴候及び手當の一般をお話させよう。

#### 疫痢

疫痢は非常に激烈に來る腸加多留の一種であります。大きいには二三歳から十歳位までの、割合大きい營養のいゝやうな子供に起るもので、突然に非常な高い熱を發して、痙攣を起します。其の時

分は便には異状を認めませんけれども、下劑を投じて見ると初めて非常な不消化物を排出し、それに續いて大變に厭な臭のする粘液便を出します。これは非常に經過の早い病氣で、疫痢の徴候があれば直ぐに醫者を招んで應急の手當をせないと、一晝夜の間には心臟痙攣を起して命を失つてしまうのです。この場合の應急の手當としては一方には下劑を投じ又一方には腸洗滌を行つて出来るだけ早く毒物を排出することでありませす。故に醫者が腸洗滌を行ふ場合には、それを拒んではなりません。兒童期の疾病ではありませすが序に小兒虎列刺の御話を致しませつ。

小兒虎列刺は、成人の虎列刺と徴候が似て居ます爲め、さういふ名があるのです。然し眞正の虎列刺ではありません。この病に罹ると盛んに吐き下しをして、少し物を食べると直ぐに吐き、酷くなるかと食へなくとも吐くやうになります。この場

合には暫く絶食療法をとるより外はないのです。吐き下しをする爲めに體の水分を排出してしまひますから、これを補ふ爲めに食鹽注射を行ふて、一時生命を保たしめ、其の間に病勢がゆるんで吐き下しが止つてから、極く少しづつ葛湯の如きものを與へ、徐ろに普通の營養に移るやうにせなければなりません。若し火急に食物を與へますと、また病氣が再發して來ます。總てこれ等の病氣は薬よりも食物の養生が大事であります。薬ばかりを當にして、其の他の注意を怠るやうなことがありましては、決して病氣は快りませせん。

春雨や猫に踊を教へる子

(一茶)

柳からもいんぐわと出る童かな

(一茶)



# 「のうるし」と「しゃうぐま」

東京女子高等師範學校助教 保井コノ

府下江北荒川の長堤數里は陽春の候に至れば數十種の八重一重の櫻を以て飾られ是に泛べる野原は櫻草を以て色附けられます、此櫻草の間に混じて其紅色をして益々華やかならしめるものは「のうるし」の帶黄綠色であります。

「のうるし」は其花の構造が特別の形を持つて居りますから、今少し是を説明したいと思ひます。まづ此植物の莖の頂きにある一個の花の如く見ゆるものを採りて檢べますと、中央には雌蕊の長い梗を持つたのが突出して居ます、此雌蕊は三個の實を持つて居る事は外から見ても明かな位明瞭であります花柱も柱頭も三本に分れて居ります、併し此雌蕊は實は花瓣をも萼をも持たぬ單性の一個の花なのであります、そして其雌花の周圍にあ

る所の多數雄蕊の如く見ゆるものも亦一個一個別々の花であつて是も單性であつて保護機關を具へない雄花であります、此雄花の外には萼の如く見ゆるものがあります、是は多數の花の群、植物學上では花叢と申しますが、それを包んで居る總苞と申すものであります、此總苞には其上縁に弧形の五個の特別の形をした部分があつて、此部分は花が開いて居る時はみづみづして居ります、是は蜜腺と唱へまして、開花中は常に蜜を分泌しまして此花の授粉作用の媒介をする昆虫の爲に食餌を與へるのであります、

「のうるし」は斯の如く蜜をもつて居りますけれども他の花の様に美しい花冠や萼をもつて居りませんから其方法で昆虫を呼ぶ事が出来ません、そ

れで別の方法によつて昆蟲を誘引するのであります、是が「のうるし」の美しい源でありまして、つまり、花瓣や萼のない代りに花叢の下の葉が普通の下方の葉と變つた色即ち帶黄綠色を帯びるのであります。

凡て此「のうるし」に似た此類の植物は何れも其開花の時にありますと、其高出葉の色を變じます、それで此性質の著しいものは園藝品として珍重されるのであります、其例は、此頃何れの温室でも大抵の所には「しやうくぼく」或は「ボインセチア」といふものを植えて居ります此植物は「のうるし」と其屬を同じくして居るものであります、まして其花の構造もやはり「のうるし」と似て居ります、まして高出葉はまた立派な紅色、或は白色となります、しやうくぼくの名は此高出葉のもゆる様な緋色からして來た名と思ひます。

「しやうくぼく」は多年生のものでありますの

と挿木でつきますから栽植には都合のよいものと冬期の花の少い時に、よろこばしいものでありますけれども外では保たれませぬ少くも「フレーム」或は温室のある所でないに育ちませぬ、しかし是に似た「しやうくぼく」といふものは一年生で種子で充分に發芽をし夏頃に美しくなりますから面白いと思ひます。

是等の植物は引まゝとめて大戟科に屬する植物であります、是等の特徴として其莖を折りますと其切り口から乳様の液を出します、是は此植物の皮層部に乳管と申す管があつて此内に乳様の液を貯へ且非常の壓力を持つて居りますから、莖がきず附けらるゝ時には強力を以て乳液を押し出すのであります、此液中には此植物の養分を含んで居りますが中に一種の「アルカロイド」といふものを含ん舎居ります、此「アルカロイド」は非常に有毒なものでありますから子供連にはよく注意を

して置かなければなりません、殊に乳汁の様に出来るなどは面白うございますから尙更氣を附けなければなりません、

「のうるし」は此乳汁管の外に、「うるし」等と同じ様に漆汁道といふのを持つて居ります、是が此植物の名野漆の依つて來た所以と存じます。

大戟科の植物には前に申す通り「アルカロイド」を含んで居りますから薬用として用ゐられます、また其種子から蓖麻子油を採る蓖麻子即ち「たうごま」も此科の植物であります其根莖から澱粉を

## 森の幼稚園 (四)

### 六 應接間

保育室の參觀は先づ御免蒙るが、來訪はいくらでも歓迎するといふのが森の幼稚園の一つの規定

採つて食用とするものあります、此澱粉は「タピオカ」と唱へられまして熱帯地方の産で只今日本にも澤山に参り居まして西洋料理に用ゐられて居る事は御承知と存じますが其植物は「マニホット、エチリツシマ」と申すものであります其他園藝植物として前に申した外に葉の表面が緑色で裏面が紫色の青サシボクや葉の色と形とに無数の變化を示す「クロトン」又變葉木の様なものも、「しやばてん」に似て莖を持つ「はなきりん」と呼ぶものも皆此類であります。

### S K 生

です。保育室が絶対に幼児の爲めの場所で見せる處でないことは更めて言ふ迄もありません、他所の幼稚園では種々の事情からそうも實行

し難い處もあります。又或る幼稚園では保育室の參觀を求めて歓迎して居られる處もあります。併し森の幼稚園では事情から言つても、先生の主義から言つても、それが厳行せられ得て居ます。先生のお考へからいふと保育室は、一定の時間、一定の計畫のものと保母が幼児を支配して居る場所である。短い時間の始から終り迄其計畫の遂行を期して居るのである。然るに參觀者は此計畫を臨時的に破るものである。さなきだに動搖し易い幼児の注意がこれによつて亂さるゝは勿論、保母と雖も多少の影響を蒙らない譯にはいかない。これは幼児の爲に大いな損害である。保育上のいろゝの工夫や新案は人にも見て貰いたい、見て流布しても貰い度い。併し我が責任を以て預つた此の少數の幼児の損害を賭して迄もそんなことは出来ない。明日の幼児の爲に、一般の保育界の爲に、聊かたりとも貢獻し度いことは山々でなるけれど

も「今日の」幼児、「此の」保育の方が先づ第一の貴重問題であるといふのです。何も理攻めでこんなことを考へるのではありません。幼児に對する先生の忠實は自づと斯くあらざるを得なくなるのです。折角熱心に觀に來た人を拒むのは随分心苦しいことです。時には随分遠方から來た人に失望させることさへあります。又世間から兎や角くと批難もあります。しかも先生は此の點に於ては強情を通して居られます。

其の代り、遊園殊に應接室に於ける來訪者の待には充分な意を盡してあります。應接室は可なり大きいのが二つあります。一つは研究的來訪者の爲の室一つは幼児の父兄の爲の室ときめてあります。研究的來訪者の爲の室には此の幼稚園の種々調査事項を一ト目に見得る様にした澤山の表や、簡単な刷り物などが備へてあります。殊に此の幼稚園で新案した種々の保育用具が詳しい説明

を附して陳列してあります。豫め多少の保育上の智識経験を有する人で二三日此の廣い應接室へ通つて之等のものを忠實に研究すれば、別に説明を聞かないでも此の幼稚園の保育の大體を知ることが出来るようになつて居ます。しかも研究主任の深井君が此の應接室の掛りを兼ねて居て、親切な説明もし、來訪者からいろ／＼の大切な意見をも聞くように努めて居ります。ですから折角訪ねて來て不得要領で歸る人もなければ、人の保育法を一寸のぞいて、其の場思も付きの批評などをして歸る人もありません。保育室の參觀をおことわりする代りには、此の應接室を以て人の利益をも謀り、又人からの教へも受け得るような仕掛が十二分に行き届いて居るのです。

此の應接間も清潔に整頓してありますが、もう一つの室の方は一層居心地のよい作りになつて居ます。四季相應の設備は勿論、圓卓を圍んで排置

された椅子は、いづれも大きい柔いもの許りで平常椅子に慣れない老婦人方にも少しも究屈なことはない様に氣がつけてあります。裝飾も成るべくけば、くしく大業でない様にして、季節々々の花や、新しい玩具などをあしらつて、極く氣安い、打ち解けた感じの起るように意が用ゐてあります。こゝは幼児の家庭からの來訪者に限つて迎へるので、必ず先生なり其幼児の組の主任なりが應接することにしてありますが、多くは先生の奥様も冬ならば熱い珈琲、夏ならば冷たい麥湯などを持つて、お心安だでの待遇に出られます。

『毎度武男が……』

『いゝえ、どう致しまして、此の頃は大層お丈夫にお成り遊ばして結構で御坐います、』

『有り難う御坐います。お蔭様で自立つて丈夫になりました。先達上りました時先生からお話を伺ひまして……』

『すぐ御實行で御坐いましたのですか、よくねえ』

『どうも之れ迄の悪い癖が深くしみて居りました、始めはなかく早くやすみませんで御坐いました、家中總が、りりで氣をつけましたので、此頃では奥様、八時が鳴りますと自分からやすむので御坐いますよ』

『お感心にねえ』

『之迄もちよい、お話や雑誌などでは伺つて居りましたが、規則正しく睡眠することがほんと

## 机邊だより

### 幼稚園の教育

(スタンレーホール氏)

一 理想的幼稚園

「幼稚園」何といふ適しい名稱でありませう。此

うにこんな大事なこと、は存じませんでした』  
『やあ、樫村さんの奥さん、よくいらした。まあ、其のまゝ。丁度今武男さん達と砂場の大掃除をして居た處です』

斯ういつた調子で、少しもあらたまらない、極く親しい、心をきかない談話の間に幼稚園からの注意も興へれば、家庭からの注文も聞く、殊に保育上の参考になるべき互の打合はせを充分にする。先生が始終言つて居られます。「此の應接室がなくしては吾々の保育は半分以上出来ぬ」と。

倉橋惣三

の名の中には様々な暗示と、大なる魅力とが含まれてゐるのであります。フレールは此の名稱の撰擇に迷ひ迷つて、遂に「幼稚園」といふ歡喜に満ちた叫びを發しました。何故なれば、生涯の努

力を教育に捧げ來つた彼れ自身の精神を、象徴するに最も適當な名稱であつたからです。幼稚園とは自然の生んだ兒童といふ美はしい花の咲いてゐる園をいふのです。また、吾々人間の造つた場面ではなく、又兒童に對する理想や、更らに大なる要求が、自然に生んだ樂園の一とも云へ得るのであります、草木は人類よりも、もつと古ひ歴史を持ち、生物進化の歴史を閲みしてゐるのです。故に何よりも前に、教育的な資格を持つて居ます。民俗史や、神話や詩歌などの中に、常に理想化せられてゐるのは、即ちその爲めでありませう。總の花は、それ／＼何等かの象徴的意味をもち、草は遊星の記號とされ、古代に於いて人類祖先の寓所であつた樹木は、今や神の御住とされてゐます。花園は自然界に於ける最も有用なものであれば、又最も裝飾的なものであります。小屋が即ち家庭であつた時代から、既に現代の植物學者が教へて

ゐるやうな利益を、動物や人類に寄與してゐるのであります。

かくて、「兒童園」といふ言葉は、分析すべからざる幽遠な思想と、感情と、刺戟とによつて隈どられた、深い原始的な靈界をなしてゐるのです。幼稚園は子供に對する新なる世界であります。一度は人工的であつた幼稚園は、今漸くにして自然のまゝな原始的生命を復活して來たのであります。單に兒童の背景として價値あるばかりではなく、最も大切な中心の場面として、教育上の勢力を占めて來たのです。近來益々盛んになつて來た學校園の運動が全く完成された秋は、即ち兒童の心と自然の心とが統一されなければならぬといふ理想が實現されたときであります。吾々は、も早や牧歌を歌ふ詩人たる要はありません。技術に巧みな園藝家たるの要はありません。老練なる農藝家たるの要はありません。温室も、芝生も、運

動物も、木蔭も、小川も、池も皆その中に備つて  
ゐます。又、肥沃といふことや、蒔種季や、收穫  
季や、鳥獸の生活や、その他のあらゆる自然現象  
は立ち所に兒童が實物から其の知識を興へられま  
す。言語や繪畫の上から教へらるゝものではあり  
ません。自然の教育とは、即ちこれでありませぬ。

これまでの教育は、兒童の全盛期を室内に閉し  
て置いた爲めに、さういふ學科の殆んど總は、兒  
童から奪はれて、僅に教科書や新聞によつて、生  
命のない形骸だけを學んでゐるのです。吾々はさ  
ういふ教育の爲めに、高價なる犠牲を拂つてゐる  
のではないでせうか。かうして兒童は、凋むだ肉  
體に、凋むだ精神を植えられて、自然より興へら  
れた唯一の眞理と、眞正な家庭とは用捨なく葬ら  
れてゐるのです。新なる幼稚園の機運は此の舊套  
を破つて、眞美なる大自然の心と合致するもので  
なければなりません。

眞正なる兒童の教育は、獨りさういふ境遇にあ  
る子供によつてのみ得らるものであります。兒童  
は、さういふ境遇に居てこそ、始めて全き生活が  
遂げられるのです。さうしてこそ、抑制といふこ  
とのない、眞に自由な子供が造られるのです。室  
内にばかり閉して置やうな教育は、いぢけた、神  
經質な子供を造る外に、何の貢獻もありません。  
多くの金が幼稚園設備の爲めに投せられてゐませ  
う。然しながら、どういふ完全な施設も、子供を  
自然の手に返して、雄大な山川の野に遊ばすより  
高價なもの、世にあり得ないのです。  
フレーベルは、常にこの理想に生き、この精神  
に刺戟されてゐた大なる教育家であります。

## 二 女子教育場としての價值

次に子供の問題から教師の問題に移つて考へる  
と、他の重大なる問題に接觸します。我が西洋文  
明諸國に於いては、既に母となるべき年齢に達し



ながら、種々の事情や若しくは、其の人達の好みによつて、未婚である若き婦人の數が非常に多くなつて居ります。エーレンフェルスが支那及び日本は將來に於いて泰西國民に打ち勝つてあらうといふ説は獨逸に於いて、非常に注意を惹いたことであります。蓋しエーレンフェルスの考へでは、西洋婦人の中に終世母とならざる者、其の最も適當なる時期に於いて母とならざる者の次第に増加することは、支那及び日本の婦人の状態に比して憂ふべき状態であるといふのです、處でこの根本問題の解決はさて置いて、これ等の未婚女子の職業問題は最も當面の考慮を要すべき問題であります。我が亞米利加の多數の女子が現に従事してゐる職業を見るに、店員にしても、事務員にしても其の他若き女子に適當と稱せられる職業が、収入の點からは兎も角、將來母たるべきの準備といふ點に於いては、極めて無意味なるもの多きを感じ

ざるを得ないのであります。尙且つ婦人職業の多くが、結婚に向ふべき女子の順調なる理想を破壊するの憂ある如きに至つては、最も悲惨のこと、云はざるを得ないのであります。私はこれ等の觀察から幼稚園保姆を以つて若き女子に最も適當なる職業であると思ふのであります。凡そ幼き子供等と接する程、婦人を快活に新鮮に、若々しく、心も體も健全ならしむるものはありますまいか。社會がレデースを造り、學校が女學者を造るといふ論法から云へば、幼稚園は、おんな——やがて母となるべき婦人を造る場所と云へるのであります。

但しこれは、現在の幼稚園に就いて必ずしも直ちに當て筈することのみではありません。現在の幼稚園の中には、餘りに形式的に、知識的に、殊に餘りに學究的であつて、若き婦人の爲めに、如上の修養の場所たるに適しないものが、屢々ありま

す。理窟つばい、學問くさい、自己批判の徒らに  
鋭すぎる程、處女らしい若き婦人の心を害する  
ものはありません。茲に於いて、幼稚園が幼兒の  
爲めの傍らに、保姆たるこれ等の若き婦人の爲め  
に適當なる考慮を費すべきことは、甚だ必要事項  
と云はなければならぬのであります。

第一は、子供の實際上の取扱の練習でありま  
す。恩物を與へたり、遊戯や唱歌を教へたり、談  
話を聞かせたり、かういふ類の正面の保育事項の  
外に、髮の世話、着物の世話、食物の世話のやう  
なことにて於いて、お母さんらしい練習がされなけ  
ればなりません。當にこれらのことに熟達するば  
かりでなく、子供の世話の細々したことに對する  
興味、養はれなければなりません。

第二は、かういふ室内の事の外に、子供と一緒  
に戸外の自然を楽しみ得る練習もなければならま  
せん。自ら自然に對する各方面の興味を有しない

で、子供を自然に導くことは出来ないのでありま  
す。即ち理想的保姆の一の資格は、自然を知り、  
感じ、愛して、自然との間に心と心の關係を有し  
て、其の感化を子供に傳へ得るものでなければな  
りません。

### 三 フレーベルの教育的事業

フレーベルは偉大なる教育者であります。さて  
現代の教育が最も重く彼れに負ふ處は何んであり  
ませう。私はこれを次のやうに分類することから出  
來やうと思ひます。

一 兒童は生物進化の歴史を再現するものであ  
るといふことを、最も早く教へたるは、即ちフレ  
ーベルであります。胎生學すらもこれを指摘せな  
かつた間に、既に彼れは約説の原理を發見したの  
であります。而してこの理論は現代の發生心理學  
の主眼となつてゐるものであります。

二、感情と本能とは、智力と意思の苞芽である

といふことを教へたのも彼れであります。現代の心理學者や、精神病學者はこの理論に基いて、種々なる發見を遂ぐるに至つたのであります。

三、フレーベルは、また子供の自發的活動及び自發性といふことを教へ、更らに、遊戯は兒童の素性的興味と才能との發現であるといふことを教へました、さうして、遊戯諸本能といふものは、學校に於ける最も大なる中心活動ではあるまいかといふことを考へ、且つ其の理想の實現を容易ならしめたのです。

四、フレーベルは熱心なる一元論者でもあれば、又、代表的な汎神論者でもあつたのです。而して彼れは、自然崇拜の極度たる汎神論を、初めて教育上に及ぼした人であります。

五、彼れは思想の根本に於いて、人類の萬能といふことを信じて居た人であります。故に總に於いて干渉と云ふことを忌み、又、教育上の施設

に就いてもそれを根底から改造するといふやうな極端を避け、徐々として進化するべきものであると考へてゐたのであります。

六、彼れは又、兒童の興へられたる個々の生活を尊重すべきものであるといふことを教へました。兒童の意思が未だ發育不完全であつて、動物のそれと等しき時代にあつては、尙其の意思を尊重すべきものである。成人の考へや、成人の立場を直ちに子供に強ゆるといふやうなことがあつてはならない。又、青年より兒童を輕んじ、兒童より哺乳兒を輕んずるやうなことがあつてはならぬ。其の生活は、調和と、愛と、自由とに満ちたものでなければならぬといふ事を教へたのです。

七、吾々は總て兒童の爲めに生き、兒童と共に生きなければならぬといふことを教へました、實際に吾々が、それ以外自己の全生活を捧げ、身を賭するに足る事業があるでせうか、吾々成人は

既に其の半生を過した人でありませう。そして國家も、家庭も、教會も、學校も、又は文明といふやうなことも、皆、兒童及び青年の發達に資する爲めに存在すべきものであります。

八、彼れは又、兒童の直觀といふことを重んじてゐた人であります。彼れは曰く、兒童は地にある種子であつて、未だ太陽の光りも見なければ、直接に雨の恩恵も感じ得ないものであります。然し、溫度や、濕氣や、熱度の微細な變化に感應せぬものではないと云ふは、兒童の無意識は神に從へばなり。」といふ彼れの格言は、決してウオーズウオーズの下に落ちるものではないことを示してゐます。又彼れは、人間の自意識に上らない靈的活動といふものは、根深くも我が全生涯を支配してゐるといふことを、臍氣ながらも豫知して居た人でありませう。

九、最後に、健康といふことに對する彼れの信

念を申上げ度いと思ひます。前に申したやうに、兒童は恰も植物であります。故に、どうしても戸外の生活が必要であります。彼れは、かういふ信念によつて、總の基礎たるべき兒童の健康といふことを實現した人であります。彼れは實に新なる衛生學上に於ける明星であります。スタンレーホール氏は、フレーベルの教育的事業を右の如く分類し、進んで、シエリング、フイター、カント等の哲學論に對比して、彼れの兒童觀、自然觀を説明してゐるです。(つらら)

●兒童研究會總會 日本兒童研究會にては本月六、七兩日總會を開き第一日は午後零時半より法科大學卅二番講堂にて、第二日は午前八時半より東京高等師範學校にて、夫々有益なる多數の講演があります。殊に第一日は宿題たる兒童保護問題に就て、ドクトル富士川游氏、醫學博士石川貞吉氏、法學博士小河滋次郎氏の有益なる報告があります。何人も聽講隨意故本會員諸君も多數お出になることをお勧めします。尙詳しくことは本月一日發行の「兒童研究」誌上に廣告してあります。

●お断り 先月は編輯者の手違ひにより本號發行期日非常に遅れ諸君に對して誠に申譯がありません。

紙風船

代々木の春。

板塀の上には覆ひかぶさる様に庭内の並木の櫻が咲き盛つて居る。ぶら／＼と其の下へ來ると幅一尺ばかりにあげてある塀の裾から大きな紙風船がころ／＼と轉げ出た、それが丁度足もとであつたのでおやつと思つて立ち止ると、同時に塀の中で可愛らしい子供の笑聲が聞えた。

「あら、何處へ行つたんでせう」

といふ聲も聞へる。空氣草履が何かで二三人芝生の上を馳けてゆくらしい音も聞へる。私もなんだか面白くなつて暫く立つたまゝ、赤と黄と青とで張り分けて其の紙風船を見て居る。風船は路傍の草にかゝつて呑氣な顔をして居る。

すると急に塀つゞきの向ふから再び高い笑ひ聲と共に「居てよく／＼」といふ可愛らしい聲が聞えた。見ると大きな御門の前に小さな嬢ちゃんやんの笑みこぼれた顔が三つ並んでこつちを見て居る。

あの時の私の顔もどんなに笑みこぼれて居たる

う。櫻も可笑しさに堪えられぬ様にはら／＼と散りかゝる。

植物園傍の坂を小さな紙風船がころ／＼と轉がつて來る。坂の上からはおつ母さんに手をひかれ四歳位の子供が、あら／＼と言つて手をふつて騒いで居る。左腕に風呂敷包みを抱へたおつ母さんは其の子の手をひきながら追つかけて來るが風船の方が餘程早い。櫻には遅い頃の例の風の強い日であつた。

坂の下からは先づ葉巻をくわへた老紳士が來た。笑ひながらストラッキで風船を抑へようとしたが、風船がころ／＼と抜けてゆくので其のまゝ坂を昇つて仕舞つた。次には女學校の生徒が二人連れで來た。風が強いので二人とも袴の裾を抑へる様にして歩いて居る、風船が丁度二人の間へころけて來たので小さな聲で「おほ／＼」と笑つて行き過ぎて仕舞つた。其の次には空車をひいた小僧が來た。此の小僧さんだけは坂の下から風船に目をつけて、無邪氣な笑ひ顔をして坂路を右へ左へ

風船を追つかけて居る。それが車をひきながらだから中々六づかしい風船はまた下へ抜けた。其の次は私の番になつた。そして子供の泣きをとめてやつたあの時の功一級は私のものであつた。

## 雑 録

### 本會總會

本月廿一日フレールベルの記念日を期して本會の總會が開かれます。午前九時二十分より、東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會のこと、及び會の順序次第は本號の廣告欄に就て御詳知を願ひます。東京高等師範學校教授大瀬基太郎氏が本會の請を容れ其該博なる教育史上の御研究から、フレールベルに就てお話し下さる事は、當日此の偉人を記念するに最もよき紀念の法であると信じます。又法學博士小河滋次郎氏も本會の請を御快諾下さつて兒童保護の問題に關し有益なる講話がある筈であります。同博士が此の方面の御研究に深いこと、吾々幼児教育に従事するものが此の方面の智識を要すべきは茲に更めて申す迄もありませんが、博士が各地の幼稚園を實地御調査になつて兒童保護の見地から平生抱懐せらるゝ御高見を伺ひ得ることは吾々にとつて殊に興味多きことであります。其の他二三の計畫もありまじし、會員諸君の多數御來會下さる事を御待ち致して居ります。尙有益なる御講演の利益を廣くお頌ちし度いと思ひ會員外の御婦人方の御來聽をも歓迎致します。

### 本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢 六冊前郵稅共六拾錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

### 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

### 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます。

- イ (庶務上保姆紹介に關する件をも含む) の御手紙は東京市小石川區久堅町七十四番地フレールベル會事務所宛
- ロ 會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、兩森劍宛
- ハ 本誌編輯の御用務(寄稿、廣告)等は東京市外千駄ヶ谷倉橋三三宛

明治四十五年四月一日印刷  
明治四十五年四月五日發行

編輯兼發行者 東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町大字千駄ヶ谷八七八  
倉 橋 惣 三

印刷者 東京市本所區番場町四番地  
平 井 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地  
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地  
フレールベル會